

第七十三回

瀬戸市文芸発表会

特選作品

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部 特選》

言わなかったこと

大阪府高槻市

打浪 紘一

弟をつれて古い大きな池へ魚釣りに行った

「暗くなるまでに帰りなさい」と

母から言われていたのに

気がつくくと夕陽は沈んでしまっていた

ふたりは釣り人からもらった二匹のフナを

バケツに入れて帰りを急いだ

家の前に怖い顔をした母が立っていた

「こんな暗くなるまで何をしてたの」

母は弟の手からバケツをもぎ取り

中の水を一気に排水路にぶちまけた

「あ……」と言う間もなくフナたちは

暗闇に流れていってしまった

べそをかく弟につられて

わたしも泣きたくなった

さっきまで心にたまっていた満足感が

全部消滅してしまっていた

「ほんまに心配ばかりかける子らやね」

そう言う母の言葉が少し震えているようだった

だからわたしたちは何も言わなかった

弟が池に落ちて助けられたことも

かつてその池で子どもが溺れてなくなったことも

叱られるのが恐くて

弟の服が乾くまで帰れなかったことも

本当は吸い込まれそうな夕焼け空の下を

手をつないで帰りたかったことも

蛹

神奈川県海老名市

加藤 水玉

和弥君が蛹になると言うから

じつとぼくは見ていたのです

朝顔を観察するように見ていたのです

やがて和弥君は茶色い蛹になりました

教室のうしろにあるロッカーに糸を結んで

毛布のような立派な蛹になりました

クラスメイトは怯えていましたが

一週間もすると慣れてしまいました

いつでも恐怖は継続しないものです

ぼくは和弥君が何に生まれ変わるのか

想像しては一日を過ごしていました

美しい翅をもった揚羽蝶になるのか

艶光りした甲虫になるのか

それとも妖しい毒蛾になってしまうのか

考えるだけで陽が暮れていきます

なかなか蛹の殻が破れないので

箒の先で突っついてみました

すると上下にもぞもぞと蠢きます

もう一度突っついてみます

今度は左右に苦しむようにのたうちま

和弥君も早く外に出たいのでしょうか

一か月後の朝でした

蛹の背中が破れて和弥君が立っています

身体がひと回り以上大きくなって

鼻の下には薄っすらと髭が生えています

もう十四歳の和弥君ではありません

大人に変わってしまった和弥君です

さようなら さようなら

声変わりした野太い声で告げると

背中に生えた翅を震わせて

教室の窓から外へと去って行きました

それから和弥君と逢ったことはありません

猛暑の夏はすぐそこまで来ているのに

まだぼくは蛹にもなれません

《小中学生の部 特選》

ヒト

瀬戸市立光陵中学校一年

太田 廣太郎

海は未知の世界だ

どんな魚がいるかわからない

海を凍らせる魚

料理をする魚

毛むくじやらの魚

どんな魚がいるかわからない

火を起こす魚

手足が生えた魚

商売をする魚

どんな魚がいるかわからない

会話をする魚

「地上にはさ

建物をつくって暮らす
変な生き物がいるらしいぜ
「地上は不思議だよな」

地球は未知の世界だ

車

幡山中学校一年

竹内 琉太

走るのは疲れるから嫌だ

時々荷物を持って運んできて重くて嫌だ

僕の体にぶつけてくることがあるから嫌だ

飲み物をくれないと動けない

放置するとボロボロになるから嫌だ

新しい車を買うのやめて

ちゃんと安全運転してね

クラクション鳴らさないで声が枯れる

壊れたら修理だして

俳句

【田口 風子 先生選】

《一般の部 特選》

豆飯やよき塩梅とほめられて
百歳の走るグラウンド秋日和
としよりが席譲りゐる敬老日

瀬戸市西本町
熊本県熊本市
名古屋市守山区

加藤 春海
槻木 俊彦
福井 登基

《小中学生の部 特選》

帰り道見上げた空は二重にじ
夏休み一番にがて感想文
聞くだけで涼しくなれる海の音

長根小学校五年
幡山中学校一年
幡山中学校一年

小澤 らら
早川 翔梧
松岡 結羽

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部 特選》

古墳へとつづく細道そばの花
瀬戸川の水のきらめき落鰻
窯開き冷へを待つ間の土筆摘み

神奈川県横浜市
埼玉県日高市
東京都目黒区

猪狩 鳳保
釘貫 次郎
清水 吉明

《小中学生の部 特選》

はじめてのおもいでいっぱいなつやすみ
聞くだけで涼しくなれる海の音
きらきらと空まうようせいしゃぼん玉

東山小学校一年
幡山中学校一年
聖霊中学校三年

かとう ひかり
松岡 結羽
若狭 帆乃里

【加藤 かな文 先生選】

《一般の部 特選》

苗木市祖父がこれほど喋るとは
とんかつに銀の網皿春の星
夏の道破れ傘のごと鳩死せり

群馬県吾妻郡東吾妻町
群馬県高崎市
瀬戸市東吉田町

金子 歩美
木村 陽翔
幸坂

《小中学生の部 特選》

毎日を日陰探してゲームのよう
プールにはつめたい水が入ってる
入ったら外には出れずこたつむり

聖霊中学校三年
長根小学校五年
光陵中学校三年

加藤 仁那
谷口 七海
平賀 流空

【横田 欣子 先生選】

《一般の部 特選》

番台のネコは瀬戸物さくらの夜
何時しかに折り合ふ仲や桜餅
元日の地震少年の背に老女

群馬県高崎市
瀬戸市ふじの台
名古屋市守山区

遠藤 幸子
加藤 泰子
坂本 雅則

《小中学生の部 特選》

さくらの木その花びらが川となる
ミント色息を呑みこむ那智の滝
暑い夏日蔭にカラス口あけて

幡山中学校三年
品野中学校三年
聖霊中学校三年

稲葉 輝莉
オルベッタ ユキ
益満 和奏

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部 特選》

新学期のボロアパートにまた一つ小さく淡く夢が灯った
掃除機の蛇腹のホースと格闘す一歳の勇者すさのおのみこと
押し寄せしAI時代を危惧しては人の役割AIに問う

大阪府箕面市 秋吉 和紀
青森県北津軽郡板柳町 斉藤 隆
名古屋市東区 多田 政則

《小中学生の部 特選》

女坂皆新なるセーラーの襟を跳ねさせ燕思わす
ぷかぷかとゆらりのんびり鈍行でクラゲの旅は行く先知れず
あせわすれバチをもつ手におもい込めひびく和太鼓仲間とたたく

京都女子中学校三年 北川 三晴
大阪市立四貫小学校五年 高畑 優
聖霊中学校二年 ブリッジズ 百佳

【近田 順子 先生選】

《一般の部 特選》

約束をほしがるだけの生き方も大人になるに必要だった
結婚をせぬ二人子の明るさよこの世の末を知りたるごとし

東京都渋谷区 芦田 晋作
東京都世田谷区 野上 卓

《小中学生の部 特選》

帰り道久々に会う友人の何かが変わり少しさみしい
デリカシーそんなものない女子校生暑いときにはスカートばさばさ

聖霊中学校二年 大原 海莉
聖霊中学校二年 ほま

川柳

【なかはら れいこ 先生選】

《一般の部 特選》

お祈りのように三回食事する
猫の耳触ってみたなら蝶の羽
太陽と月を身ごもる反抗期

瀬戸市八幡台
瀬戸市東山町
京都府京都市

佐藤 ちなみ
端 華音
福村 まこと

《小中学生の部 特選》

ハロウインの人が集まるあほらしさ
さいきんはねこのしっぽをなでている
おれスイカまつすぐ来たぞもうだめだ

南山中学校三年
幡山中学校一年
陶原小学校四年

伊藤 颯海
田上 美桜
松宮 恵祐

【宮内 多美子 先生選】

《一般の部 特選》

学校のエコレンジャーよ美化係
正夢にしたい戦のない世界
失敗も笑いに変えてまた一歩

愛知県一宮市
滋賀県長浜市
福島県二本松市

大江 豊
野口 成人
やんちゃん

《小中学生の部 特選》

海の中陽が溶けていくシャワーベット
いい天気空が青くて心晴れ
あしたこそもっと上手になってやる

名古屋市立本郷小学校四年
幡山中学校一年
幡山中学校一年

井上 真奈央
水野 由唯
牟礼 彩乃